

東京の観光振興を考える有識者会議
議事録

令和6年2月13日（火）13：30～14：36
新宿NSビル3H会議室

【江村観光部長】

お待たせいたしました。これより「東京の観光振興を考える有識者会議」を開会いたします。

本日は、御多忙にもかかわらず御出席いただきまして誠にありがとうございます。

東京都産業労働局観光部長の江村でございます。議事に入るまで進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認を行います。

お手元には、議事次第、座席表、資料1の委員等名簿、資料2「ナイトタイム観光、歴史・文化を活かした観光の促進について」、資料3「委員からの主な意見」、そして、先日9日に公表いたしました「PRIME観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン2024-2026」をお配りしております。

オンラインで御参加の方は、事前に事務局より送付しております資料を御覧ください。なお、オンラインで御参加の方につきましては、御発言のときのみマイクをオンにいただき、それ以外はマイクをオフ、ミュートにさせていただきますようお願いいたします。

次に、本日の委員の皆様の出欠状況について報告させていただきます。

本日は、委員15名中11名の皆様に御出席いただいております。うち3名の皆様にはオンラインでの御参加をいただいております。出席者につきましては座席表の配付をもって代えさせていただきます。

それでは、この後の議事進行につきましては、佐藤座長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【佐藤座長】

それでは、2023年度第4回目の「東京の観光振興を考える有識者会議」の議事を進行させていただきます。

今年度は、有識者会議をこれまで3回開催し、先ほど机の上に配られているという御説明がありましたけれども、2024年度から2026年度までの3か年にかかる東京都観光産業振興実行プランについて議論してまいりました。その成果として、この実行プランは先月公表されましたので今年度の有識者会議の任務は終了したと安心をしておりましたが、小池知事から、新たなテーマについて有識者会議で御議論願いたいとの御依頼がありましたので、今回、第4回目の会議開催に至った次第であります。

それでは、小池知事から新たなテーマについて御指示いただきたいと思います。知事は公務の御都合によりこの場への御出席がかなわないということで、代わりにビデオメッセージをお預かりしておりますので、御覧いただきたいと思います。

【小池知事】

皆様、こんにちは。東京都知事の小池百合子です。

「東京の観光振興を考える有識者会議」、今年度4回目の開催に御参加いただいております。ありがとうございます。

先日、この会議での議論を踏まえまして、来年度から3か年の観光振興の計画であります東京都観光産業振興実行プランの取りまとめをいたしました。皆様の御協力、感謝申し上げます。

さて、今日は議論いただきたいことが2つございます。

一つは、ナイトタイム観光。これからの観光振興につきましては、夜の時間帯をどうやって充実させていくか、これが鍵となります。そして、これはナイトタイムエコノミーの活性化にもつながる。年末におきましては都庁舎でプロジェクションマッピングを活用しましたカウントダウンイベント、こちらを実行いたしました。そして、今月末からは毎日、都庁舎でプロジェクションマッピングを上映いたします。ロンドンやパリなど世界の各都市も華やかな催しを繰り広げていますよね。ナイトタイムの活性化、それは東京の国際競争力を高めていくことでありましょう。

そして、もう一つ、これは江戸時代から続く歴史や文化です。これをいかに後世に引き継いでいくのか、しっかりと保全を図りながら観光客にも楽しんでもらえますように磨き上げていく、その工夫が必要です。世界からの注目、関心を集め、東京が培ってきた伝統への都民の皆様の意識も一層高めていく。そのためには、江戸の歴史や文化を世界遺産に登録するという取組も重要だと、このように考えています。東京をさらに魅力的な観光都市へと進化させていくために歩みを続けてまいりましょう。

それでは、忌憚のない御意見、どうぞよろしく願いいたします。

【佐藤座長】

小池知事、ありがとうございました。

ただいま知事からナイトタイム観光と江戸時代から続く歴史や文化を活かした観光という2つのテーマについて議論願いたいとの御依頼がありました。

まず、小池知事から御指示のあった2つのテーマ、ナイトタイム観光、歴史・文化を活かした観光について事務局より資料の説明を受け、その後、委員の皆様の御意見をお伺いしたいと思います。

それでは、事務局、よろしく願いいたします。

【前田観光振興担当部長】

かしこまりました。皆様の席上に置かせていただいておりますPRIME観光都市・東京実行プランでございますけれども、先週2月9日の金曜日に公表させていただきました。プランの策定に当たりましては、委員の皆様から大変貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。改めてお礼を申し上げます。

それでは、資料2「ナイトタイム観光、歴史・文化を活かした観光の促進について」、御説明します。

まずナイトタイム観光の促進についてです。

東京は夜景や食、アート、イルミネーションやライトアップなど、様々なナイトタイムのコンテンツを有しております。また、昨年末には都庁舎でカウントダウンイベントも実施いたしました。こうしたものをこのページでは写真で御紹介をさせていただいております。

続いて、次のページ、経済効果でございますけれども、ナイトタイム観光の促進は宿泊・飲食・体験消費・交通などに幅広い波及効果をもたらし、事業者の方々にとっても夜間という新たな時間市場において事業を拡大する機会となります。

また、ロンドンやニューヨークにおきましては、この下の表にございますように相当規模の経済効果が試算されています。ニューヨークでは、経済効果のうち、フードやアートが大きく寄与していますけれども、このほかにもこの金額にはコンサート等やスポーツ、レクリエーションなどが含まれています。東京においてもナイトタイムの活性化による大きな効果を期待できると考えております。

次のページは訪都外国人旅行者の行動などです。アンケート調査です。

外国人観光客が東京で楽しんだ行動として「ナイトライフを楽しむ」等の割合は多くはありません。また、都内の印象的なナイトタイムコンテンツとして、以前、都が実施した調査では、夜景や街の散策などが上位に挙がっております。

次のページ、世界の各年でのナイトタイムのイベント・コンテンツでございます。

ロンドンやパリなど世界有数の観光都市では、年末に華やかなカウントダウンイベントを催しており、観光客を含め数十万人が集まると言われております。また、夜の時間帯は食事のほか、ブロードウェイのような観劇やVivid Sydneyのようなライトアップのイベントが人気を集めております。

次のページでは、御参考までに新たなプランにおける都のナイトタイム観光に関する取組を抜粋して記載しております。

続いて、歴史・文化を活用した観光の促進についてです。

東京では、江戸の歴史・文化を伝える様々なスポット等が観光客に人気です。江戸の歴史・文化はサステナビリティの観点など世界でも有数の価値を持ち、それを後世へ残していくことが重要であり、こうした伝統をしっかりと守っていくためにも、江戸の歴史や文化を世界遺産などに登録するという取組も重要と考えております。

次のページでは、日本の歴史や伝統などを今に伝えるということで、世界文化遺産を幾つか御紹介しております。

次のページでは、世界の主要都市に所在する世界文化遺産を御紹介しています。その都市の歴史・文化を伝え、保全措置を図るとともに多くの観光客を引きつける有力な観光資源ともなっております。

次のページでは、御参考に、新たなプランにおける歴史、芸術など文化資源の活用に関する都の取組を記載しております。

次のページは、東京都全体の計画であります「未来の東京」戦略につきまして、先日公表したversion up2024の観光分野の抜粋です。

左側の上の中ほどのところに「江戸の歴史・文化を『世界遺産』に」という記述をしております。

以上を踏まえまして、次のページ、主な論点でございます。

まずナイトタイム観光の促進について、東京観光を十分、観光客に楽しんでもらうためには、夜間等の時間帯を活用することが重要です。また、ナイトタイム観光の振興は消費額の拡大に効果的であるだけでなく、観光需要の時間帯の分散にもつながります。

観光客の満足度を高めるために必要な取組、ナイトタイムの活用を進める上で有効な取組は、そして、安全・安心の確保とどのような両立をしていくかなどが論点になるかと存じます。

歴史・文化を活かした観光の促進につきましては、江戸時代から続く歴史・文化は世界に誇る価値を有し、後世に引き継いでいく必要がございます。また、これらはインバウンドからの関心も非常に高く、観光資源として活用していくことも重要です。

貴重な建造物等を保全し、どう活かしていくべきか、観光資源としても活用するために何が必要か、世界遺産などとするためにどのような取組が必要かなど、論点になろうかと存じます。

委員の皆様から様々な御意見、御提案を頂戴できればと存じます。

資料の説明は以上でございます。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

それでは、意見交換に入ります。

知事から御指示のありました2つのテーマはいずれも大きなテーマであり、今日のこの場で議論を尽くすのは難しいかもしれませんが、まずは自由に御意見をおっしゃっていただければと存じます。

本日御欠席の委員の方々からは事前にコメントをいただいておりますので、まず事務局より御紹介いただきます。

【前田観光振興担当部長】

本日、急遽欠席となりました石川委員を除きまして、欠席した委員からの主な御意見を紹介いたします。

石井委員は、人気が高い食やショッピングもナイトタイム観光に含まれているはずであり、よく分析する必要がある。

世界遺産については、建物等に限らず、他の切り口も含め世界遺産としての実現可能性が高いものを検討していく必要がある。

鎌田委員は、ナイトタイム観光については、民間でも様々な取組が行われている中、行政としてなすべきことを精査する必要がある。民間が取り組みにくい状況を解消することに注力すべきである。

もし東京の何かが世界遺産に登録されれば、地域住民の生活を含めて様々な制約がかかるので、そうした点も含めて検討すべきである。

そして、星野委員からは、ナイトライフは重要であるが、訪問理由の調査結果でその順位が低いからといって、そこに投資することがよいとは限らない。

「食」が高いということが世界の競合都市の中で東京の差別化ポイントになっている現状を考えると、「食」をさらに強化することがブランド戦略的には正しい可能性がある。ちなみに、食体験のDXにおいては、東京は改善すべき点多々あると考えている。

歴史・文化の活用について、東京の観光都市としてのブランディング視点では、京都との違いを打ち出していくことが重要。長期的に京都と似てしまうと東京のブランディングとして好ましくないだけでなく、日本全体の観光ブランド戦略上もマイナスになる。効果的なブランド戦略は、多くの要素よりも絞った要素の訴求が重要であり、歴史は京都に任せ、京都とは違った文化面に集中することが戦略上正しいと考える。

以上でございます。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

それでは、皆様から御意見をいただきたいと思えます。時間が限られておりますので、御発言はお一人3分をお願いいたします。

まずオンラインで御参加の方から御意見を伺います。

それでは、小巻委員からお願いいたします。

【小巻委員】

お世話になっております。どうぞよろしくをお願いいたします。

ナイトタイム観光、そして、歴史・文化というのは本当に非常に重要なテーマだというように思っております。こちらの2つのテーマをいただいて今現在考えたことを少し共有したいと思えますけれども、まず、いろいろな調査がなされているとは思いますが、実際のところ、どういったことに興味、関心があるのかであるとか、その動線ですよね。日本にいらしたときのいわゆるカスタマージャーニーのようなこともいろいろなところが分析調査をしていると思えますので、そういったデータをまずは共有化できる部分は共有化をして、し

っかりとニーズをつかまえるというところがまずベースにあるかなというように思います。

今、星野委員のお話にありましたけれども、確かにナイトタイムのいろいろな施策が十分でない東京都においては、調査結果としてはそれが訪問目的にはなっていないという現状、これがまさに私たちが課題感を持つべきところだと思うのですが、そういったところも踏まえて一体どんなニーズがあるのかということもまずはしっかりと現実を分析する必要があるかなと思っております。そういった上で、インバウンドの方たちがどういった動きをしているのかということも含めて分かった上で、どういった施策、企画が一番功を奏するのかということも一緒に考えていけたらなというように思います。

ただ、いろいろと可能性は本当に感じておりまして、私どものテーマパークも夜のもっと演目を増やしたほうがいいのか、食とかいろいろなアイデアは出ているものの、一番そこでネックになっているのは実は交通インフラなのですよ。分かりにくかったりとか、帰りのタクシーがなかなかつかまらないとかということ。ですので、どういった項目、カテゴリーのナイトタイム、エンターテインメントや食、文化、アート、いろいろあると思うのですが、それを用意するかと同時に、交通インフラであったりとか安全面の配慮。特に多言語対応というのはやはりここでも必要になってくるかなというように思っております。

バラエティー豊かな施策の中には本当に日本ならではのとか東京ならではのというものも幾つか用意できるのではないかなというように思っておりまして、お台場の辺りを活用するであったりとか、先ほどの都庁のマッピングなんていうのは、年末、ハローキティ、登場させていただいたときに感じたのは、本当にものすごく多くの海外の方が橋の上から御覧になっていたもので、そういったところで言うと土地の特徴だったりとか建物、高層ビルが多いわけですから、そういうものの特徴を活かしてナイトタイム、東京都ならではの何かエンタメを用意することは比較的取り組みやすいのかなというように思っております。

それから、文化・歴史に関して言いますと、なかなか江戸というのとか、例えば今、大河でやっている平安とか、いろいろ歴史・文化はあると思うのですが、先ほどの歴史は京都に任せてというところでは、平安的なものは確かに京都にお任せしてですが、江戸ということ、江戸の文化ということになるともうこれはどうしたって東京になりますので、何かちょっと今、そこに具体的なこれというのが思い浮かばないのですが、いろいろと東銀座の再開発などもありますので、ここということにやはり集中をして何かアピールできるものがつくり上げられたらいいのかなというように思っております。

いずれにしても、活用していただくためにはハブとなるような場所、羽田空港とか東京駅、上野、新宿、銀座、渋谷辺りの分かりやすい御案内の仕組みと

というのがどうしても不可欠ではないかなというように考えております。

ばらばらといろいろと申し上げましたが、以上のようなことを考えた次第です。どうぞよろしく願いいたします。

【佐藤座長】

小巻委員、ありがとうございます。

続いて、伊達委員、お願いいたします。

【伊達委員】

では、オンラインのほうから失礼します。

外国人の方がなぜ日本に来るかということ考えたときに、大体よく言われるのは日本の文化的発見がいいであるとか、もしくはエンターテインメント性があるって非常に行く場所がたくさんあって多様性があるって面白いということが言われていると思います。そうしますと、いらっしゃる方というのはどうしたいかということ、来日したからには深夜も含めてもう限られた時間、目いっぱい日本の中で遊び倒したいというようなニーズというのは、やはり現実にあるのではないかなというように思っています。そういう意味で、ナイトライフをどのようにコンテンツとして作り上げてくるかということは、収益を拡大する意味でもとても重要ではないかというように思います。

ちなみに、海外の方がいらっしゃる我々の外資系のホテル等にヒアリングしてきますと、海外の方がぜひあったらいいとよくおっしゃるのは、ナイトマーケットであったりとか、もしくは他のアジアであるように深夜まで営業しているショッピングモールであるとか、あと高架下の居酒屋、屋台とか、そういったところが日本らしくて楽しいであるとか、あとは夜遅くまでやはり入場できる美術館とか動物園があると行けるのに、飲食以外、深夜まで楽しめるアトラクションがあるといい、もしくは有名なDJがプレイするような高級ナイトクラブが日本には少ないのではないかということをおっしゃるというのをヒアリングしています。

一方で、では、プロジェクションマッピングだとかというのは、実は特に聞こえてきていないというのがあります。ただ、これに関してはどうなのでしょうね。他国にあるのに日本にないからということを使うのか、もしくは、まだあまりないので、そういう対象物だと思われていないというだけであって、やはり華やかで効果的なものとして捉えるということもあるのではないかというように思います。

少し総論的に申し上げますと、多分マッピングの話というのはコストもかかるのですけれども、街のブランディングであるとか集客力、地域全体の集客力という意味で効果的だというように捉えて、その波及効果をどう考えるかということだと思えますし、一方で、やはり本当に経済効果がどのぐらいあるのか、もしくはナイトライフをやることによってそれをどのぐらい都として目指すの

かというものを明確にしながら、どのぐらい行政としては投資するのかを考えていくべきではないかなというように思います。

一方で、先ほど交通インフラのお話を小巻さんがされましたけれども、もう一つ懸念されるのは、労働力は確保できるのかということだと思います。ただでさえ、今、足りない、足りないと言われ、そして、労働時間の規制等をしている中で、24時間働ける都市になり得るような環境、労働力を確保するためにどのようにするのかというのも行政としてもう一步踏み込んだ提案が必要なのではないかなというように思います。そういう意味では、数値目標をつくるからには、それに対応できる財源とインフラというものをきちんと確保していくことが必要なのではないかなというように思います。

以上です。

【佐藤座長】

伊達委員、ありがとうございます。

続きまして、田中委員、お願いいたします。

【田中委員】

田中です。発言の機会をありがとうございます。

今回いただいた2つの観点につきまして、1つずつコメントをさせていただきます。

まず、ナイトタイムの観光の活性化についてですけれども、観光客の視点で東京のナイトライフ、これをもっと細かくいろいろ提案をしていく余地があると思っています。夜の東京を、楽しめるシーンはたくさんあるのですけれども、まだ情報が明確に出ていないところもあるかと思います。例えば、エンタメコンテンツであれば映画やアニメを見て、皆さん、世界から日本に関心を持って、東京に関心を持ってお見えになりますから、そこで有名になった夜の名所をピックアップして、その訴求を図っていくこともできると思いますし、伝統文化であれば薪能、寄席なども夜にも体験できる場所を活性化することができるかと思います。

現在も実施している、スポーツ観戦とか、そこにはスポーツ体験の視点を入れるとか、あるいはコンサートなどにおいて、全てに東京・日本の食を組み合わせるといったこともできます。コンサートの後に内容に関連する日本の食を体験してもらおうとか、スポーツの後にもスポーツならではの私たちの食とのマッチング等がありますので、そういうことがどこまでできるのかというパッケージの提案ができると思います。

また、シティドレッシング、プロジェクションマッピングにおいて、今度、都庁舎にプロジェクションマッピングを投影するニュースもありましたけれども、ああいうダイナミックなものをどんどん提案して、光と安心と安全とイマジネーションから東京ならではの夜の風景ということで演出ができるかと思っ

ています。

また、先ほどお話もありました買物のできるところ、免税とか、例えばアジアの都市で、香港など夜12時ぐらいでもお洋服を買えるみたいなところは結構あって、お店が開いていれば消費が発生すると思いますので、そういうような場所をどういうように担保していくかということも検討するとよいかなと思います。

あとはナイトクルージングとか、ナイトフライトで御飯は食べられないかもしれないですけども、ナイトクルージングですと本当に食の体験というのが同時にできますので、屋形船とかそういうのは人気、前もありましたが、もう少し大きな船も小さな船も、いろいろな川や東京湾やいろいろなところで夜が食とともに、お酒とともに楽しめるような、そういうところをぜひ東京ナイトライフの提案として、SNSですとか海外の人が見られる情報発信をDXを使って提案をしていくということができればいいかなというように思います。

また、江戸の文化と歴史というのは、これを学んで活かしていくというのがすごく重要だなというように思っていて、世界遺産を目指すというのは本当に重要で、コルビュジエの西洋美術館しかないのはちょっと残念な感じもいたしますので、日本ならではの江戸文化というのが世界の人に認められるために、暮らしの知恵とまちづくりと建築といろいろなものが一体化された江戸の文化は、世界にも本当に例のない特別な事例であるというようなことを発信したいです。さらには、保存管理体制や、建築のメンテナンスの技術ですとか、いろいろなものが東京ならではのものが誇れるもの、たくさんあると思いますので、そういうアカデミックな見地も入れながら情報発信ができるとよいかなと思いました。

伊達委員のほうがお詳しいと思いますけれども、先日、森財団の調査を伺って、東京にはランドマークがまだまだ世界の中でも少ないと知りました。東京タワーやスカイツリーなども世界規模では認知度がそこまで高くないということなので、象徴的なランドマーク、つまり、アイコンを今回の江戸文化と紐づけて観光で際立たせていくということが今こそ重要なのではないかなと思っています。

私も大好きな江戸東京博物館がありますけれども、ここは今、改修中ということですので、ここのコンテンツをオンライン上で発信していくというような展開ができないか。そこに紐づけて、プラス、あそこで展示されているいろいろな内容が現在の東京の中ではどうなっているとか、そういうようなところが描かれるとよいかなというように思います。

1個だけ言い忘れて、ナイトタイムにちょっと戻ってしまっただけで申し訳ないですけども、やはり東京の夜の楽しみ方、スポットはたくさんあると思いますので、にぎやかな都市のところがナイトタイムの何か経済で注目されますが、

本当に静かな東京郊外とかの自然の中での夜ですとか、あと星を見るとか虫の音を聴くとか、そういうようなこともいろいろコンテンツは考えられると思いますので、夜のメニュー、充実させられるといいなと思っています。

以上、よろしく願いいたします。

【佐藤座長】

田中委員、ありがとうございました。

それでは、会場の委員の皆様からも御意見を頂戴いたします。山田委員から順に時計回りでお願いをしたいと思います。

それでは、山田委員、よろしく願いいたします。

【山田委員】

よろしく願いします。

まず、このナイトタイムエコノミーをすることによってきちんとマネタイズができるかというところが一つ大事だと思っています。例えば日本に来る理由で一番多いのが食もそうなのですが、夜だと桜、夜桜。この夜桜はすごくお金をかけてきれいにライトアップしていますが、それはブランディングとしては必要なのですが、果たしてそれに伴うマネタイズの部分が出ていくばかりだけではなくてきちんとできているのかとか、そこら辺のお金をかけるポイントが本当にブランディングプロモーションだけなのか、きちんとそれによるマネタイズをしていくのかというところを、その桜自体であるのか、もしくはその周りであるのかというところの計画をきちんと立てていくというところと、プロジェクションマッピングも、では、点灯している間はその周りのお店は開いているのかとか、マネタイズのところをきちんと考えていくのが必要なのではないかなと思います。

先ほども出ましたけれども、私がちょうどロンドンに住んでいたとき、バスが24時間になりまして、たしか2016年ぐらいから地下鉄、チューブも週末は夜通し運行しています。日本でコンサートに行ってもレストランに行っても、バスや電車がなし。逆に、では、延ばしたところでお店が開いてくれないという、鶏が先か卵が先かという話になってしまうと思いますが、ナイトタイムエコノミーをするに当たって、これだけ交通の発達している東京ですと、やはりライドシェアとかいろいろな二次交通の運転の問題もありますので、こういう交通公共機関の発達というか、夜に運行するということはやはり考えていかなければいけないのかなと思います。

ライドシェアに関して、今、ちょっと話すと長くなると思うので。ただ、アメリカだと0.08%まで、要はビール1杯分ぐらいはもう運転していいということになっていますし、そこら辺の規制というのは少し話は変わってくると思うのですが、今は運転ができないということで考えると、夜、交通を東京の中で巡らせていくということが大事だと思います。

あと1つ、私、海外に18年で長いのですが、一番日本と海外の違いで大きいなと思うのが、クリスマスとニューイヤーズ・イブなのですが、海外はクリスマスは家族で過ごして、ニューイヤーズ・イブはみんなでパーティーするみたいなどころがあるのですね。逆に日本は、クリスマスはお友達とか恋人と過ごし、年末年始は家族で静かに。この日本の年末年始の静けさを保ちながらも、割と海外の友達が年末年始に遊びに来て困ってしまうことが多いのですね。私は家族といて出られないですし、では、どこに行くというと結構なくて。

一度、都が都庁舎を開放してくださってそこで何かしたという話はこの前、伺ったのですけれども、そういうような周りに静けさを保ち、日本のよさも保ちながらも箱の中とかで年末年始というところをきちんとナイトタイムでマネタイズしていくということも一つありなのではないかなと思います。

江戸の歴史とかの方で言いますと、プロジェクトマップングもそうなのですけれども、海外でもできること、それはそれでやっていかなければいけないと思うのですが、やはり例えば食、海外でもフードサービス、120億ドルぐらいナイトタイムで稼いでいるというこのニューヨークの数字、今、頂いた資料にあります、日本の強さを他が真似できないところでやはり勝負していくというのはすごくありだと思っていて、江戸、先ほど京都との違いとあったと思うのですが、やはり江戸といえばお寿司、日本といえばお寿司、その江戸が日本、東京にあってというところで、このお寿司というのをもう少し、今ははやってはいるのですが、一つ懸念としては、このお寿司が日本のものであるという登録は一切なくて、前も申し上げましたが、ミラノ万博でお寿司は中国のものであるという展示があったそうです。

今は笑っているけれども、これがだんだんそうならないように、例えばシャンパンとかもいつの間にか、昔はスパークリングワイン、全部シャンパンだったのですが、今はシャンパーニュ地方で作られたものしかシャンパンと言えなくて、スペインのものはカヴァとかスパークリングワインとかスプマンテとかプロセッコというようにシャンパンと言えなくなった。これはきちんとフランスの政府がGIというGeographical Indicationという登録をして、その土地のものであるというIPを取ったというところなのですね。

こういうのが一番強いのはアメリカのディズニーだと思うのですけれども、日本の政府も日本のものとみんなが今、思っているということではなくて、この江戸の寿司というのも例えば東京都としてGIを取っていくとか、きちんと担保していくということも一つありなのではないかなと思います。

ナイトタイムエコノミーに関して、日本にこのために来るというイベントというのが本当に残念ながらあまりなくて、例えばではF1のためにモナコには行くけれども、鈴鹿のためにわざわざ東京に来る人はあまり少ないですし、カンヌ国際映画祭にはわざわざ行くけれども、東京国際映画祭にわざわざ来る人も

少ない。今から建物を造るとかということよりは、そういうこのために日本に来るといような何か大きいイベントを今回のまた別の東京都で「東京ベイエSGプロジェクト」という別のイベント、御一緒させていただいているのですが、そういう日本の強み、食とか文化というところを活かしたイベントというのをどんどん発信していくというのもありなのではないかなというように思います。でも、まずはGIが取ればすごく大きいのではないかなと思います。

以上です。

【佐藤座長】

山田委員、ありがとうございます。

それでは、続きまして、マリ委員、お願いいたします。

【クリスティーヌ委員】

すみません、同じようなことを思っていることをほかの方々もお話ししてくださいましたのでそこまで細かくお話ししませんが、この江戸文化・歴史と言ったときに江戸文化に対するこの江戸という言葉は外国人はそんなに知らないのですね。むしろ興味があって歴史に興味がある方々は、東京は昔、江戸と言っていたのだなど。もし江戸を認識してもらうためには、東京イコール江戸という、そういう言い方をしていますとPRすることが大事ではないかと思えます。

そして、ナイトライフについてなのですが、私、先週、タイに行ってきたばかりなのですが、本当にナイトライフ、楽しいのです。例えば道を歩いているだけでちょっとしたフットマッサージ屋さんが開いていて、夜中2時、3時まで足のマッサージもできたりとか、またはちょっと何か食べたいと思ったらショップが開いていてそこに食べに行けたりとか、また、先ほど話が出ましたようなナイトバザーというものも遅くまで開いているわけなのです。

では、東京は何ができるかというのと、先ほど伊達さんもお話しされましたように、この働き方改革についてももう少し検討すべきではないかなと思いますのは、例えばシフト制で仕事ができるような形にするならば、3シフトで24時間、どこのお店でも開けることができたりとか、あと海外から来られる方々のナイトライフのひとつにショーを見た後にディナーを取りたい方がいらっしやると思うのですが、大きなコンサートホールの周りの店は全部もう閉まってしまいうわけなのです。コンサートを見て、それを楽しくこんなことがあったよね、あれよかったよねと語るためのまたディナーができる場所、食べることができたりするところが周りがあるとそこも潤うわけですから、そうであるならば何か特別、もし許可が出せるのならばそういうところも遅くまで開けていてもいいようにするとか。

あとはデパートなのですが、外国の方々がお買物しやすい場所ですので、デパートをそれこそ2シフトか3シフトにして夜もお買物できる。それも

例えばゾーニングをきちっと東京がして、中心部になるようなショッピングセンターはそうやって許可をする。例えばパリに行きますとパリの区の中で必ずパン屋さんは1個、毎週日曜日、開いてなければいけないようになっているわけなのです。なぜかという、パンを食べる権利はパリのフランス人はみんなきちっと持ってらっしゃるので、全部パン屋さんが閉まっていたはいけないということなのですね。

ですので、そのような形で何か東京らしい、外国の方々が日本に来たときに特にビジネスマンが非常に多いわけですので、ビジネスマンの方々が仕事を終わってからでなければ自分のフリータイムがないわけですから、例えば美術館に行きたいときにはもう7時、8時に閉まってしまうということであれば自分たちが見たいものが見られなくなってしまうと。ですから、そういう何か上手な仕組みを東京都が作ることによって、皆さんが遅くても入れるような場所が必ず開いていたり、あと食事できるようになったりして、なおかつ、コンサートとかそういうのが世界から見ますともうすばらしい音楽、日本で味わうことができるのに、もっとそれをPRすべきだと思うのです。

ついこの間、4日間だけテイラー・スウィフトさんが日本に来ていたのです。あのときに世界中で、東京でテイラー・スウィフトが、というのがインターネットで出ているのに東京の中でテイラー・スウィフトのチケットが完売してしまうともう全然宣伝しなくなってしまうのです。でも、テイラー・スウィフトが東京に来てこうやって飛行機に乗ってまたすぐに自分の恋人のフットボール選手のところに自家用機で帰る。それも何か特別許可を日本政府が出したみたいなのですけれども、そういうことも含めて、やはり話題、広報になるわけなのです。お金をかけなくてもいい広報が日本にたくさんあるのにもかかわらず、宣伝をしてではなくて、そういうあるものを上手に活用するということが大事だと思うのです。

あとは今、Netflixで『TOKYO VICE』というTVシリーズが今度、シーズン2ができることになったのですけれども、それも東京の中で撮影しているわけなのです。そんなすばらしい効果を生み出してくれるそういう広報になるわけなのです。そういうものをもっともっと、こちらから東京都が見つけてそういうものをきちっと広報していくということがお金をかけなくてもちゃんと世界にも広報できますし、そして、なおかつ世界中の方々、見てくれていますし、東京タワーと言ったらゴジラという、世界中、ゴジラと東京タワーがセットですので、そういうことでの上手なPR効果をもう少しナイトライフもそうですし、歴史・文化も含めてやっていただけるといいのではないかなと思います。

もう少しありますけれども、時間がないのでまた次回にさせていただきたいと思います。

【佐藤座長】

マリ委員、ありがとうございました。

それでは、次は牧野委員、お願いいたします。

【牧野委員】

まずナイトタイム観光に関して3点、話したいと思います。

1点目が、現状の分析というところで資料で拝見させていただいたロンドン、ニューヨークの経済効果が出ていたのですけれども、東京の経済効果、経済規模が出てないので、どれぐらいの違いがあるのかなというのが見づらいので、その部分を出してもらいたいということと、あとニューヨークに関してはフードとかアートとか分類が少し書かれていましたが、それぞれのカテゴリーで今もナイトタイムのコンテンツが食なのかエンタメなのかショッピングなのかいろいろな議論が出ているところなので、どの分野で今、東京が足りてないのかというところの把握をすることが必要かと思うので、そういったまず経済規模から見たいなというところがありました。

昨年の2023年のニューヨークの観光客は83%が国内からのお客さんなのですが、そうなると、ナイトタイムと考えたときに国内を対象にしても考えなければいけないのではないかなというところで、ちょっとその中の比率みたいなものも見ていかなければいけないと思いました。

あとはコンサートとかエンターテインメントにしても、こういった話、これまでも何度も出ていたと思うのですけれども、数が少ないのか、質が足りないのか、コンサート情報が見つげづらいのか、また、購入とか決済のハードルが高いとか、多言語対応できてないとか、ちょっとどの部分の課題があるのかというのが分からなくて、個人的にはそんなにコンサートの質が悪い、数が足りてないということは東京はないと思うのですが、そうすると、もしかすると新しいコンテンツをつくるというのではなく、現状の課題の改善をするべきなのではないかなというところが分かると思うので、その部分を把握したいなと思いました。

あと2018年の平成30年にナイトライフ観光の実態調査をされていたので、これは7年ぐらいたっているのでアップデートしてみて、日本人、外国人問わず何を旅行者として求めているかというのをもう一度取ってみてもいいかなというように思います。

2点目が、それをやった上でなのですが、2つちょっと考えていて、まず日常的ローカルな生活が楽しめるような考え方でナイトタイムを考えたほうがいいかなと思っていて、暮らすように旅をするであったりとか、その地域の日常ということ自体が訪日観光客にとっては非日常だと思いますので、ライトアップだとか夜景とかエンターテインメントとか単発的なイベントのコンテンツを新しくつくるだけではなくて、今、普通に日本人が日常に楽しんでいるようなお祭りなのか、盆踊りなのか、花火なのか、縁日なのかとかということも

そうですし、もっと言えば居酒屋とかスナックとか地元の店とか、そういったものを行きやすくするような環境整備みたいなものも必要だと思いますので、何か特別なものを新しくつくるということではなく、日常的なものをアクセスしやすくするという観点でも見ていただきたいと思います。

3つ目が、これもこれまで出てはいますが、夜だからできるという発想ではなくて、夜でもできるみたいな発想で考えていくのがいいのではないかなと思っていて、先ほどマリさんもお話しされていたような、夜出かけてもマッサージが行けるみたいなことだったりとか、昼間で普通にできているようなショッピングとかマッサージとか美術館とか博物館とか、そういった昼間にできることを夜でもできるような形ができればいいかなと思っていて、それをやるにはもちろん環境整備とか労働をどうするかということが必要だと思うのですが、何か新しくコンテンツをつくるということではなくて、今あるものを時間延長して夜やるというような考え方で見ていただければと思っています。

以上がナイトタイムです。

歴史・文化に関してですが1件なのですが、世界遺産というようにおっしゃられたのでちょっと考えたのですが、やはり世界遺産と言ったときに何が世界に影響を与えたことなのか、あるいは世界に先駆けて何ができたのかというところを江戸としてできたことをちゃんと言語化して伝えなければいけないのではないかなと思っていて、それが僕は個人的にはまだ分かってないところで、よく言われるところと言うと、江戸時代に人口が100万人で世界で一番大きな都市だったというところを考えると、何か多分そこにそれが実現できたことの秘密のところがあると思うので、そういったところであれば何でそれができたか、また、それが現代にどう息づいているかというようなところを紹介できるようなストーリーみたいなものがあるといいと思っています。

特にやはり世界遺産は、最近は何物ではなくて価値とか意義だと思っていますので、そういったつくったストーリーラインを先ほども話があった江戸東京博物館はコロナの前からも多くの外国人の方が来ていて、東京がどうだったかということを知るのに良いビクターセンター的な位置づけだったと思いますので、また再開したらビクターセンターとしての位置づけとして、そのストーリーをちゃんと伝えるようなことができればと思います。

僕からの発言は以上になります。ありがとうございます。

【佐藤座長】

牧野委員、ありがとうございました。

牧野委員の御指摘の1点目は資料に関することですので、事務局、次回以降、対応よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、次、根木委員、お願ひいたします。

【根木委員】

よろしくお願ひします。

まず食なのですけれども、たまたまちょうど僕、先週1週間、広島にいたのですね。食事を食べに行ったら屋台村みたいなお好み村、そこに行ったのですが、もうびっくりしたことが、インバウンドの方々が物すごく来られていて、小さいお店が幾つかあって、行かれた方、分かると思うのですが、鉄板がUの字にあって、その店がもう何軒かはインバウンドの方しかおられなくて、逆に異国に僕は来たのかなと思うぐらいで。やはり食というものの日本ならではの、僕、関西人なので粉文化でお好み焼きといえば関西というイメージがあったのですけれども、広島でこれだけ人気海外で出てきているのはすごいなというように思ったときに、やはり山田委員が言われたように寿司というのは世界に誇れるものであって、江戸前というものでいくともっともっと本当に東京であるものだということをもっといろいろな形でアピールしていくであつたりとかというの、いろいろなものもやっていくの、がいいのかなというのを思いながら先週はちょっと過ごしていました。

あとナイトタイムなのですけれども、これは牧野委員と開始前にちょっと話をしていたのですが、やはりアクセシビリティの問題で、僕、弱視の友人たちもいるのですが、夜になると通常で普通の生活の中で見にくさというものがあるのですよね。実は考えたら、僕も車椅子に乗っていて結構アクティブユーザーでどこでも行くのですけれども、僕自身が年齢とともにちょっと見にくくなっていたりとかというの、多少あるかもしれませんが、ちょっとした段が、昼間だったら何となく歩けるものが夜になると見にくくなるというものがある、これは多分みんな同じだと思うのですよね。

弱視の人という、何か障害者という特別な人でなくて、実は見にくいというように、全盲の人より弱視の人は実はすごいパーセンテージいるわけで、そういう人たちも考えるところがすごく重要で、実は夜が、何かナイトタイムをネガティブに考えるわけではなくて、逆に僕、いいなと思うのがライティングで誘導灯がついていたりすることによって行きやすさ、方向が分かったりとか、サインがあることでトイレの場所が分かったりとか、行く場所が分かりやすかったりするというものもある、これも日常の中でその夜の見やすさというものをもっともっと、これは助成するのか、ルールでどこまで決められるか、既にあるとは思いますが、それを観光のものの中でしっかりと取り入れるということをする、東京のナイトタイムというのはきれいさだけではなくて過ごしやすさというものが格段と優れているというものも、何か一つの売りとしてできていって、これは国民にとっても日常の生活の中にとってもすばらしいものになっていくのかなというように、何か普段の生活の中で感じるものがあつたのでできたらいいなというように思いました。

あとは歴史・文化でいくと、これもちょっと似ているのですけれども、以前

までは僕はもう40年ぐらい前に車椅子ユーザーになったのですが、最も行きづらいところ、行かないところだったのですよね。だけれども、やはり神社、仏閣、別に場所だけではないということが、先ほどそれこそ牧野委員が言われていたのですが、古いところの場所ということろ自体がいろいろな配慮が欠けているものが多かったと思います。

でも、今、どうなっているかということ、実は行きやすい場所の一つに僕の中でがんとランクが上がってきているのではないかな。なぜかということ、それはやはり改修があったりとか駐車場ができたりとかすることによって、そこは配慮されているのです。実は一番トイレとかがなかった、男子しかないところが、やはりこの何十年の間にいろいろな建物を改修する視点で古いものをしっかり残しながらデザインされた、その景観を損なわないような形の多目的トイレがあったりとか動線があったりというのはすごく進んでいっているので、その辺も引き続きいろいろな要素を考える中でついついちょっと後回しになりそうなところを、逆に売りとして日本はこんなに移動しやすいよということろをナイトタイムもそうなのですけれども、広めていけたらなというように思いました。以上です。

【佐藤座長】

根木委員、ありがとうございます。

それでは、続いて、アトキンソン委員、お願いいたします。

【アトキンソン委員】

まず世界遺産なのですけれども、よくある質問で私が直接関係している業界でもありますが、世界遺産の登録は観光には全くつながらない。ほぼ意味のない話です。実際には、2018年12月に世界遺産登録の後に観光が増えたのか、増えてないのかという43本の世界の論文を分析したメタ分析の論文が出されています。その中で今、申し上げたとおりで、世界遺産登録は観光誘致にはつながらないということは断言されています。

世界遺産登録の効果というのは、主に途上国にとって大いに影響するという部分は確認をされていますけれども、そういう場合もあればそうでない場合もあるので、断言できるようなものではないのですが、いずれにしても、日本は途上国ではありませんので、先進国として世界遺産登録を求めるといのはやってもいいのでしょうか、それは観光誘致につながるということは分析によって否定されている事実です。石見銀山を見ればほとんど誰も来ない世界遺産、ここに出ている平泉もありますけれども、そんなに人が来るわけではない。日光東照宮の修理をしている小西美術の社長としては、世界遺産に登録されているから人が日光に来るといことは全く論理的な根拠はありませんということで、やってもいいのでしょうか、観光的なやる価値があるかということそれはないです。

もう一つのナイトライフなのですけれども、これは個人的なところというよりは前からずっと検討されていて提言されているものだと思いますが、コンサートを見るとロンドンでもパリでもニューヨークでも、基本的なインフラとして当日でも事前にでも、街なか、もしくはオンラインで全部統一されたサイトで簡単に手に入れることができるということは一番のポイントになっています。

日本のコンサートに関しては、私が言うのはあれなのですけれども、いかにも日本的で、コンサートのチケットを修行のように手に入れにくい形にするのは日本の得意分野ですね。海外ですと転売もオーケーですし、日本は法律で禁止。海外の場合ですとTKTSに持っていけばそこで買い戻してもらって、そこに行けば次の何時から何時までどこにチケットがあるのか、幾らなのかと全部そこで手に入れることができます。日本の場合ですと、事前でないと駄目だとか登録しないと駄目だ、会員にならないと駄目だ、ファンクラブに入らないと駄目だとか、それは何か事前でないと駄目だと、いついつからそれで売出しをするとか、場合によっては訳が分からなく、そこでコンビニに行って実物を発券しなければいけないとか、要するにマニアの人以外は来るなど。外国人としてそういうことはとてもでないとできません。

ですから、これは国のほうでもずっと言われているのですけれども、これは言ってみれば東京に限定されてもいいと思いますが、コンサートだとかそういうものはナイトライフに寄与するような形にしたいのであれば、ずっと前から言われているこの問題を解決するべきものでないかというように思います。

あと時間帯ですよ。日本のコンサートの場合ですと、大体一般の人があまり行けないような時間帯が多いのです。海外を見ると大体7時半だとか8時スタートとか多いのですけれども、日本の場合ですと男性としてはもうまず行けない時間帯でやっています、観光客としてもその時間帯というのはまだ観光ができる時間帯からスタートするわけなので、その時間帯というのは非常に難しい。多分これは変えられないと思いますけれども、チケットに関しては変えられると思います。

ですから、ロンドン、ニューヨークでどこでもあります、TKTSブースだとかそういうブースを都心に設けていて、そこに行けば、要するにその都心にある全てのコンサートと制度の中で行われているものの一覧表があって、安く買うことができる場合もあれば、事前に予約する場合があります。そうすると、みんな稼働率が上がっていったよくなるわけなのですけれども、私としては、コンサートの質云々という話があって、いや、そうではなくて、何で手に入れることをそんなにハードルを高くしたいのかという、日本の業者にもう少しネットを使って手に入りやすくしていただきたいと思います。

以上です。

【佐藤座長】

アトキンソン委員、ありがとうございました。

それでは、次は滝委員、お願いいたします。

【滝委員】

発言の機会をいただきましてありがとうございます。

私からは江戸について申し上げます。江戸時代の260年、参勤交代で1年おきに殿様がふるさと江戸を行き来し、奥さまは江戸にいてというなかで、日本中のすばらしい産品が東京に集まっていたと思いますし、そういう歴史の中で築かれた東京の魅力というのはものすごく高く深いものだと思います。一つの例ですが、たいして宣伝もしていないかもしれないのに、江戸の面影を残す谷根千には海外の人、欧米人がいっぱい来ているそうです。そのように東京に息づく江戸260年の文化、食や様々な文化的施設など魅力があるのですからそれらを徹底的にPRすべきです。

今、すごく心配なのが、谷根千などに残る江戸時代からの町並みの存続です。相続税の絡みでビルになったりして町並みが壊れてしまう。すでに世界的にも知られる文化的な遺産、観光資源的として評価されている地域を守るという意味で、ファンドなどの活用なども含めて相続の問題をなんとかすべきだと思います。制約があっても、財産を保全するというか文化的資産を所有することとは非常に名誉なことであり、お金の面だけでなく可能性があるのではないかなと思いますし、そこを徹底的に対策すべきだと思います。

それともう一つ、先ほど牧野さん、アトキンソンさんからもありましたが、見たいものが見たい時間帯に見られないという問題。“夜でも”というのはとてもいいコピーだと思うのですが、そういう意味では二交代制にするなどしてでも8時以降に美術館や博物館あるいは町並みがそれなりに楽しめるというような形にする。そうするのにいちばん合っているのは東京だと思います。

東京が24時間稼働している中で日本全国のふるさとの魅力に出会ってインバウンドなどの観光客が地方に分散していくというようなことも考えられます。全国各地にもまたすばらしい高い文化、歴史的な資産があります。MICEで来た人や同行してきた家族が東京で日本各地のふるさとのことを知って、国際会議などが終わった後にそこへ行く。あるいは、次に日本に来たときにそこへ行く。そのように東京をターミナルにした形で日本の各地も賑わっていく。そういう意味でも、東京は夜の9時で閉まるみたいな形は問題だと思っていますし、観光的な価値のあるところは何らかの形で二交代にしてでも夜も楽しめるというようにするのがいいのではないのかなと、そんなことを思います。

【佐藤座長】

滝委員、ありがとうございました。

それでは、田川委員、お願いいたします。

【田川委員】

ありがとうございます。時間がないので端的にお話しします。

東京の魅力は都市力の魅力というか、そういうものをどうのように考えるかなのですけれども、都市はもともと集積度が高い場所が都市なのです。ですから、都市ほどそういう素材の多様性を持っている。私は世界の中で東京ほど多様性の高い都市はないというように思っているのですが、その中で唯一抜けているのはやはり夜と文化の開発とか改革が抜けているというように思っていました。

先ほど旅行者の消費を増やすためには、一日の行動時間を長くすることなのです。我々はよく海外旅行でできるだけお客様を遅くまで引っ張って起こしておく。なかなか寝かせない。そういう街がやはり一番儲かるわけで、そういう意味では東京はすぐ寝てしまう街なので、そういう意味では長くすることが必要なのですけれども、皆さんが言ったいろいろな仕組みの問題、特に私はデービッドさんと同じようにこの話はもうずっと20年ぐらい前から話していて、1つだけ解決できてないことが制度の改革なのです。夜遅く働くため、夜遅く歌舞伎をやるため、いろいろなそういうものをやるため、そういう労働環境を認める制度が東京都でも特別区だったらやってもいいのではないかと思うぐらいのところ、そういう制度がまだ改革できてない。これをやはり都政としてはやるべきだというように、民間ではできないことを東京都ではやってほしいというように思います。

それから、やはりもう一つは、年間スケジュールが東京で何をやっているかよく分からないのですよね。一年の四季折々。マッピングをやっていると、東京都の東商で観光委員会で取り組んでおります東京三昧という年間スケジュール、ずっと3年ぐらいやっているのですが、なかなかスケジュールがうまく発信されていないのです。

これはパリだったら、パリは一年中365日、全部知っているのですよ。何をやっているか。今は現代美術のイベントをやっています、今は何をやっています。では、このときに現代美術に行くなら1か月やっているからこのときに行こうとあるのですけれども、東京はないのですよ。そういうスケジュール表を作るのは今、アプリでやれば幾らでもできるので、東京観光財団でもぜひ作ってもらいたい。これは東商でも応援できるものなので、ぜひそういう年間のスケジュール、どこで何をやっているかだけでも知らせるべき。それは昼も夜もですね。そういう意味ではそういうことがあれば先ほどお話にあったマッピングでお金を投じて、そこで見た人が有料でないのでお金を稼げませんが、それで来る人だったらちゃんとお金を稼げるという、多分消費行動につながるのだらうというように思います。

江戸は私、皆さんが言ったように江戸東京博物館、もう少し頑張ったらい

と思いますが、江戸というのは江戸時代のことを言っているのですか。江戸は都市名で言っているのですか。都市名で言ったり時代で言ったりするのでややこしいのですよ。両方抱えている、江戸時代という「江戸」と「江戸」という都市名と2つ抱えている数少ない全世界で街なのです。

ですから、東京は江戸文化と江戸時代文化を両方実現させなければいけない役割を持っているのが今、東京都の時代の文化活動だというように思うのですね。今、滝さんがおっしゃったようにそういうことも含めて江戸時代は全国から参勤交代で来ました。全国の物産が東京に集まったのです。今、アンテナショップがあります。全然東京都はアンテナショップというのをうまく使ってないのですよ。そういうものを含めると江戸時代の文化と江戸文化をどうやって整理して、JNTOを通じて世界のロンドンとかベルリンでやっているITB BerlinとかというところでPRできるかというところにかかっているのですが、そういうプロセスが今ないので、ぜひ世界遺産の前にそれをまずやってほしいなというようにはちょっと思っています。

それから、最後に、国連のUNWTOも今回、WTOをやめてUN Tourismという名前に正式に変わりました。今、この表ではUNWTOになっているのですけれども、UN Tourism。これはなぜかといったら、世界貿易機関と間違えるのでツーリズムということをしかりと。ツーリズムというのは交流ということですから、交流をメインに世界の文化を考えようですから、何か物を作るとか物を与えるよりも人々の交流をする場所、コミュニケーションする場所をたくさん造って、それが多様性を持って、先ほど言いましたように障害をお持ちの方だろうが、健常者だろうが、見られるまちづくりをするという、それがやはりPRIME東京の基本だというようには思います。

以上です。

【佐藤座長】

田川委員、ありがとうございます。

まだまだ御意見もおありかと存じますけれども、時間の関係もありますのでこの辺りで意見交換は終了とさせていただきます。

本日は委員の皆様から多様な、かつ貴重な御意見を賜り、ありがとうございます。委員の皆様の御意見からも分かりますとおり、小池知事から御指示いただいたナイトタイム観光と江戸時代から続く歴史や文化を活かした観光という2つのテーマは、論点が非常に多岐にわたっており、議論をさらに掘り下げていく必要があると考えます。

そこで、来年度は、この「東京の観光振興を考える有識者会議」の下に、小池知事から御指示いただいた2つのテーマについてそれぞれの分野の専門家などを交えた部会を立ち上げ検討を進めることといたしたいと考えますが、いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

【佐藤座長】

それでは、その方向で進めていただきますよう、事務局にお願いをしたいと思えます。

最後に、事務局から連絡事項等ありましたらお願いをいたします。

【江村観光部長】

本日は貴重な御意見を賜り、ありがとうございました。

部会の設置に向けまして早速調整を進めてまいりますとともに、部会での検討内容につきましてはこの有識者会議に御報告いたします。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

以上でございます。

【佐藤座長】

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

委員の皆様、どうもありがとうございました。